

## 令和5年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会 会議録

日時：令和5年6月26日（月）13:30～15:30

場所：久慈地区合同庁舎6階大会議室

### 1 開会

#### 【下山理事】

ただいまから令和5年度第1回県北広域振興圏地域運営懇談会を始めさせていただきます。私は、司会進行を務めます、理事兼副局長の下山と申します。よろしくお願い申し上げます。

それでは始めに、県北広域振興局の坊良局長から、御挨拶申し上げます。

### 2 挨拶

#### 【坊良局長】

皆様こんにちは。本日は、皆様お忙しい中でお集まりいただきましてありがとうございます。今回は、新型コロナウイルス感染症が感染法上の取り扱いが5類に移行しまして、感染状況も落ち着きを見せてきたということで、3年ぶりに皆様に御参集いただく形で開催することとなりました。

昨年度開催時には、皆様に御協議いたしまして、様々な御意見を頂戴し、本年3月に策定いたしました「いわて県民計画（2019-2028）」第2期アクションプランの初年度であります。地域振興プランも初年度であります。県北広域振興局では、このプランに基づきまして、地域の重要課題である人口減少、そして所得水準の向上対策ということで、結婚支援でありますとか、U・Iターンの促進、農林水産業を始めとする食産業やものづくり産業の振興、地域の特性を生かした交流人口の拡大など、様々な取組を展開して参ります。

これらの取組を進めていくためには、地域振興のパートナーである市町村、関係機関、そして住民の皆様方との情報共有を図りながら、一層の連携・協働の下、取り組んでいく必要があると考えております。

本日は、今年度におけます県北広域振興局の主な取組について説明させていただき、これについて意見交換を行いたいと思っております。限られた時間ではありますが、この県北圏域の活性化につなげていけるよう、皆様方から、それぞれの立場での忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。

最後でございますけれども、今日の午前中に二戸地区と盛岡地区の純情産地いわて園芸産地激励会というものがありまして、知事が一戸町の奥中山高原のレタスの圃場で収穫をし、そして、岩手町のキャベツの圃場を現地視察した上で、意見交換をしてみました。私も意見交換に参加させていただきましたけれども、昨年は大雨で相当被害があって、今年は順調なのですけれども、資材等が高騰して、かつ、市況が非常によくなく、いいものができて

いるのに価格が低迷しているという状況で非常に苦しいというお話も聞かせていただきました。県・町、それぞれ支援策を講じております。でも、一番の支援は、私どもがこの県北で育った野菜をおいしく消費することが、生産者の思いにつながるのかなと思っておりますので、この場で御紹介させていただき、我々もいろいろな場面でキャベツ・レタスをおいしく食べていきたいと思っておりますので、皆様方にもよろしくお願ひします。

ということで、本日はよろしくお願ひします。

#### 【下山理事】

次に、本日御出席のみなさま、それから県の出席者でございますが、お手元の名簿をもって紹介に代えさせていただきますので御了承願ひします。田家様には、オンラインで参加いただいております。なお、本日は御都合により、阿部様、内野澤様、川代一枝様、高浜様、千葉様、古舘英彦様、古舘拓様、谷地様は御欠席でございます。

議事に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。本日は次第、出席者名簿、座席表、県北広域振興圏地域運営懇談会設置要綱をお配りしております。また、次第の下の箱囲みに記載しています資料5種につきましては、事前に送付してございます。足りない資料がありましたら、事務局までお知らせ願ひします。

それでは次第の3、議題に入らせていただきます。県北広域振興局地域運営懇談会設置要綱第4の規定によりまして、運営懇談会は局長が主宰することと定められておりますので、以降、坊良局長が司会進行を行います。

### 3 議事

#### 【坊良局長】

それでは、議事の方、進行させていただきます。次第の3、議事ということで、初めに、「令和5年度県北広域振興局の主な取組について」、振興局から説明いたします。その後、皆様と意見交換を行いたいと思ひます。事務局から、資料の説明をお願ひします。

#### 【山本企画推進課長】

〈資料1～3の説明〉

#### 【坊良局長】

今年度の県北広域振興局の主な取組ということで、説明させていただきました。本日はこの中身について、御意見等を頂戴したいと思っております。

中身の御意見を頂戴する前に、この資料の中で確認したい事項、不明な点等の質問がございましたら、まずはそちらを皆様からお伺ひしたいと思ひます。御質問、確認したいこと等

ございますでしょうか。

中身についてはよろしいでしょうか。

はい、それでは次に、意見交換に移ってまいりたいと思います。本日は当初参加を予定していらっしゃった方で、急用のため欠席となった方もいらっしゃいます。御出席の皆様の方から、十分様々な御意見をお聞きするお時間ができてまいりましたので、当初、御発言時間を3分ということをお願いをしておりましたが、5、6分でも大丈夫でございます。それぞれ確認したいこと等お話しいただければと思います。

前回の皆様から御意見を頂戴したことを振り返りますと、やはり一番は、この地域の産業の人材不足、人材確保が非常に深刻だということを御意見として頂戴しており、その背景には、人口減少、あるいは、高齢化ということがあるわけなのですけれども、そういったことを私どもとして十分踏まえた上で、県（本庁）の取組もございますけれども、それと併せて振興局の取組ということで、重層的な取組で今の直面している大きな課題に対応していきたいと考えて、こういった取組内容となったところでございます。

それでは、皆様の方から御発言をお願いしたいと思います。今回は順番ということではなく、皆様から挙手をいただきまして、その方からお話をいただきたいと思います。トップバッターを切りたいという方がいらっしゃいましたら挙手をお願いしたいですが、いかがでしょうか。

では、私から指名させていただきます。川代さんお願いできますでしょうか。

#### 【川代構成員】

ミドリ久慈衣料の川代と申します。本日はよろしく申し上げます。

人材を確保するのが、今、非常に大変です。地元の高校生の新卒もなかなか採用できなくなっているということで、今年、インターンシッププログラムの支援ということで、北いわてアパレルインターンシップへ振興局から支援をしていただくことになっております。今、地元からだけではなかなか採用できないという状況ですので、この支援をしていただきながら、県外からの採用等ができればいいなと思っているところです。

今、一戸町に日本ソーイングさんという紳士服を作っている縫製の会社さんがあります。そこでは今、住宅手当を出しており、東京方面に求人をだしたところ、何人か採用できたというお話を聞いております。そういうことを聞いたので、うちでもできないかと思っているのですけれども、どの程度の住宅手当を出したら来てくれるのかというところが、検討がまだついていないところです。ぜひ、どのくらいできてくれるか分かればいいのと、あと、住宅手当とともに、社員寮をつくったらどうかということも考えております。社員寮を設置したときの補助金等があるような話も聞いたことがあるのですが、実際その辺どうなのかということをお伺いしたいと思っております。

それと、先ほど結婚の支援等もあるという説明をお伺いしました。うちの社員も結構独身がいっぱいいるのですが、知っているのかなということがあって、今日聞いて、帰ったら社員にしっかり説明したいとは思っているんですが、1万円の補助だとか、そういったところを知ってるのかなというところですよ。去年の大野の婚活イベント、会社に帰ってそれとなく話をしたりしたのですが、あまり反応がありませんでした。あまり強く言うと問題があるかと思って、あまり話せなかったのですが、周知がうまくできるような方法があればいいかと思っています。以上です。

**【坊良局長】**

ありがとうございました。様々御質問等いただきました。熊谷室長、答えられる範囲内でお答えできますか。

**【熊谷産業振興室長】**

産業振興室の熊谷でございます。なかなか難しい質問が続いたような気がします。

一点目の住宅手当の関係でございますけれども、どの程度出せばというのは、会社さんによって様々かと思えます。日本ソーイングさんもどの程度かというのは、多分川代さんの方で聞いていらっしゃるかと思いますが…

**【川代構成員】**

来る人が、どの程度くらいだったら岩手に来てくれるのかといったところを参考にしたいと思えます。

**【熊谷産業振興室長】**

そういったデータが手元にはないのですけれども、通常耳にするのは、上限を決めた半額程度というところが住宅手当の相場と申しますか、そういったところかと認識しています。地域ではそれでも、県外から来る場合はもう少し割合が高いのかもしれませんが、そういったところは、勉強させていただきたいと思えます。

あとは、社員寮の補助ということでございますけれども、手元にデータはないのですが、二戸の某アパレル会社さんが盛岡の方に社員寮を持っているということでしたので、参考までに聞いてお伝えしたいと思えます。

婚活支援の方については、山本課長からでよろしいですか。

**【山本企画推進課長】**

ありがとうございます。先ほども結婚支援の中で、パークゴルフ大会という話をしました。

直接的な結婚支援というよりは、まずはゆるやかに若者間で交流をする機会を設けてはどうかということで企画をするものです。今お話のあった案内の仕方も、市町村・商工団体の広報を使って御案内をしようと思っておりますが、同じ世代でも業種が異なるとなかなか交流する機会がないということで、肩の力を抜いて、まずは若者同士で集まって交流しましょうということで、声掛けができるようにしたいと思いますし、ハードルが下がることで、もう少し関心を持って参加してもらえる方も増えるのかと思っています。この辺は事業を進めながら、適宜改善をしながら進めて参りたいと思っています。以上です。

### 【坊良局長】

私の方から少し補足をさせていただきます。

まず、人材確保、県内・地元だけでなく県外からも採用する方策も必要ではないかというお話もありました。インターンシップは、県外のアパレル服飾関係の専門学校の方々も対象として、インターンシップのための交通費を補助するような形で、Iターンとして県外からお越しいただければと考えておりました。

そして、首都圏からこちらにUターン・Iターンで就職された場合に、住宅手当だけではなくて、生活支援ということで、世帯により、例えば単身だと30万円だとか、子どもさんがいる世帯では60万円だとかそういった形で、一時金ではありますが「移住支援金」というものがございます。ただ、首都圏といっても、東京23区限定、神奈川県はダメだとか、いろいろ制約はあるわけですが、のちほどそちらは詳しくお知らせをしたいと思います。

住宅手当の相場観であります。先ほど熊谷室長からお話もありました、だいたい半額ぐらいかなという話でありましたけれども、私もいろいろ聞いていますと、給料をもらってその中から、持ち出しは3万円くらいが限度ではないかと考えています。例えば、家賃5万円のところであれば、2万円は会社が負担をして、自分が出すのは3万円+その他光熱費のような感じかと。何社からか聞いていますと、感覚的にはそんな感じです。

あと、結婚支援の周知が足りないのではというお話がありましたけれども、今年度は、管内の各市町村広報に掲載してもらおう、商工会議所の会合など、そして、折込チラシなどもやりたいと思っていましたし、単発でひと月乗せるだけではなく、求人欄と同じように、毎月市町村広報に載せていきたいと思っています。忘れないように、常に親御さんにも、企業の方も、本人にも目がつく形でやっていきたいと思っています。

あとは、いかに参加者の背中をたたいていただくかという当たり、ここが私どもにとって難しい問題でありまして、今日の後半戦に課題を取っておいて、今日の意見交換後半で議論していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

少し長くなってしまいましたが、2番は私という方、藤織さん、お願いします。

## 【藤織構成員】

合同会社プロダクション未知カンパニーの藤織と申します。久慈市の委託で移住コーディネーターというお仕事もやっているのでいくつかお話したいと思います。まず結婚支援についていくつかと、移住支援についていくつかと、今後取組として進めてほしいこととお話したいです。

まず、「i-サポ」についてなんですが、Uターン・Iターンで未婚で来る方から登録しているという話を結構聞くんなんですが、「使い勝手の悪さ」が非常によく聞くところです。登録するのも結構大変で、基本的には盛岡に行かなければいけない、出張事務所が久慈に来たときにそこに行って登録しなければならない、そしてマッチングも事務局にあるタブレットでしか見ることができないというのが、言い方は悪いですが、結構時代遅れなのかなという感じがします。マッチングアプリはスマホ等でなんでもやる時代なので、使い勝手の悪さがかなり目立っているのではないかと考えております。

結婚支援についても一つ、若者の交流促進なんですけれども、パークゴルフ大会がどういう経緯でこのような形になったのか分からないのですが、もっと若者を主体に、若者が「こういうイベントをやったらいいのではないか」とか「こういうものであれば若者が交流できるのではないか」とか、そこまで若者が考えた方がいいのではないかと。そこで、スタッフをやることで交流も生まれるのではないかとというのが私のアイディアでした。これは不可能であればやらなくてもいいのですけれども。

あと、Uターン・Iターンについて少し。Uターン・Iターンの補助金がいろいろあると思うんですが、岩手県の移住支援金で、東京から移住されたら100万円出るという補助金がありますが、これは、シゴトバクラシバいわてに登録している企業に就職しないと出せないのですが、久慈市の企業はほとんどなくて、シゴトバクラシバいわて自体の広報が行き届いているのか、実際企業さんは分かっているのかというところが少し疑問です。そして、移住支援金には関係人口という区分があるんですけれども、市町村によって関係人口のとらえ方、基準がまちまちです。関係人口と言ってしまうと、すごく広くとれるんですけれども、そんなに何人にも100万円だせるわけもないよなということで、どうしたらいいのか分からないところが市町村にあると思っています。久慈市は多分まだ1件も出していないかもしれないと、なかなか使えていない現状があります。

もう一つ、いわて若者移住支援金について、これは岩手県が独自でやっているものなんですけど、これも使えれば若い方は嬉しいだろうという金額なんですけれども、どうしても「女性ならプラス5万円」というのがとてもひっかかっています。移住者として、男性と女性とで何が違うんだろうという、ジェンダーの問題が非常にひっかかります。

あと、全然関係ないところで、今後取組として進めてほしいことということで、前回、川の藪がひどいという話をさせていただきました。看板を立てていただいたのか、小屋は結構

撤去してくださっていて、それはよかったと思っていながら、また夏になってきて、藪はまだ藪のままで、放置自動車等もあって、私の近所の河川敷は割と荒れている感じになっているので、防災的にもどうにかしていただきたいという思いがあります。以上です。

**【局長】**

ありがとうございます。結婚支援の関係、山本課長どうぞ。

**【山本企画推進課長】**

結婚支援の関係、耳の痛い話でございまして、こういった状況があるというのは認識したいと思いますし、若者の交流イベントの関係は、実際パークゴルフ大会の具体的な中身を詰めていくときに、実際に参加する若い人たちの意見を少しということで、局内の若手の方にこういうイベントに参加するのであればどういう中身がいいかという意見を聞きながらやっているんですけども、若者が交流するイベントの企画そのものに入ってもらいたいというのは、確かにそういう視点はあるのかということで、非常に参考になったと思っております。

**【局長】**

照井部長、河川敷の放置自動車の件をお願いします。

**【照井土木部長】**

土木部長の照井でございます。河川の藪の伐採につきましては、今年度久慈川の大成橋の少し上流側で実施をしております。放置自動車等はあってはならないのですが、私の耳に入っていない案件なので、あとで詳しくお伺いしたいと思います。

**【藤織構成員】**

わかりました。何かが必要でしたら、町内会でも話をしたいと思います。

**【局長】**

「i-サポ」の登録は、藤織さんの言うとおりのことです。私も登録しようと思ってみると、独身証明書、独身証明書はどこでとれるのかと知っている、役所で出すようですね。そういうものの添付が必要だとか、本人が「i-サポ」の登録場所に行って確認しないと登録できないだとか、「これが今の時代か」というような感じがありました。

この前「i-サポ」の事務局長さんが意見交換に来た際に、私からも今言ったような部分について申し入れしました。できるだけ使い勝手のいいものにしたいと。ただ、いかんせん公的立場のシステムですから、既婚者が遊び半分でやってもらっては困るとかそういった制約

がある中でこのシステムになっているということ、青森県等他県もだいたい同じような感じなんです、いずれにしても、使い勝手はよくないということで改善をお願いしているところでもあります。

あと、移住支援金の女性の割り増しについては、藤織さんのおっしゃるとおりであります。なぜプラスαにしているかというのは、もう御存じだと思いますが、人数で見ても割合で見ても、男性よりも若い女性の方が県外に転出しているわけです。そうしますと、どうしても人口減少という意味では非常に影響があるということで、一度出て行った女性の方々に少しでも多く戻って来ていただきたいという意味合いでのプラスαという政策ではあります。しかし、そういった懸念があるのも確かでございます。承りたいと思います。

あとは、パークゴルフ、これは1回やってみて、複数回やりたいと思っております、パークゴルフかと思われるかもしれませんが、もう少し若者の意見も聞きながら、イベントを考えていきたいと思っております。

では、次、よろしいでしょうか。小松さん、お願いいたします。

#### 【小松構成員】

小松製菓から参りました、小松と申します。よろしくお願いたします。Iターン・Uターンに関して、先日東京の企業の方で、企業同士のマッチングをする会社（地方のために何かできることはないかということ創成しているスタートアップ企業）の方の話では、東京の方でも若い方は、地方でも働きたいと思っている人はかなりいるという話で、ではそれほどにいるのという感じなんですけれども、若い人の集客の仕方、募集の仕方等をレクチャーします、そういうことができるひとをマッチングしますというお話で、うちで具体的にまだ進んでいるわけではないですけれども、そういう話がありました。私は、元東京でITの会社にずっといたので、今そのITの企業に勤めている友人がたくさんいるんですけれども、もうほとんど会社はミーティングをするか、営業の人がそこでお客さんと会うかという以外は、コロナ禍から戻ってからも全部リモートで、日本のどこにいてもいい、全部リモートで仕事をして、どうしても行かなければならないときだけ会社に出勤するという形の会社が結構あるようなので、そう考えると、住むのは県北でもいいのではないかと。子育てするにはいいまちということで売り出していく方法はないかというところを、その話を聞いたときに思いました。岩手県は四国がまるごと入るくらい広いので、土地は有り余るほどあると思いますし、たべものもおいしいですし、子育てにフォーカスしたいろいろな支援をすれば、母子家庭の方も、もしかしたら周りの方が助けてくれるということであれば。保育園も預けたくても預けられないという人も結構いますので、保育園も確保しやすいということで、魅力のワードは結構出てくるのではないかと思います。

あと、東京からだけ誘致をするというわけではなく、例えば、2030年には北海道新幹線が



通るので、札幌からの誘致でもいいのではないかということも思いました。

先ほど言っていたパークゴルフは、勝手な私の考えですが、老人がやるものだと思っていたので、若い人がやるんですかね。

#### 【野田構成員】

若い人もやりますよ。

#### 【小松構成員】

そうなんですか。二戸の私の知っている人ではみんな老人しかやらないので、私のイメージは、老人がやるものと思っていました。

海外から流入という話ですけれども、確かに盛岡の場合は、検索すればNYタイムズが2番目に紹介しただけなんですけれども、なぜか2位という話になってものすごい恩恵を受けている感じにはなっています。私は盛岡に週に半分くらい行くんですが、確かにかなり海外の方は来ていますし、特に台湾が多いかと思います。前は見なかった西洋系の方も結構いますし、冬になれば安比高原があるので結構来たりもするのかなと思うんですけれども、盛岡から県北からくるために、海外の方は絶対にネットで検索をするはずなんですよ。ネットで検索をしたとき、盛岡を検索したときに、どうやって県北に引っ張ってくるのか、県北のいろいろな紹介するためのページのSEO対策<sup>1</sup>・MEO対策<sup>2</sup>はされているのかなというのを感じたのと、受け入れ側の飲食店・販売店は、きちんとインバウンド対策されているのかなど。盛岡は結構されているのがみえるんですけれども、県北ほどの程度されているのかというのが疑問に感じました。

北上の方に半導体の会社ができる北上の人口が急激に増えているという状況になっていると思うんですけれども、海外から指導で移住してくる方もいますし、盛岡で働いている人たちも、給料が高いので北上に移るといった話も聞くので、その影響がどうなのか、県北には影響はないかということも思ったりします。以上です。

#### 【局長】

ありがとうございます。子育てしやすさ、県北の生活のしやすさのPRをしているのか、どうやってPRしていくのかということ、あとは検索エンジンで盛岡を検索したときに県北が検索されやすいようになっているのかといった辺り、企画課長なにかありますか。

---

<sup>1</sup> 《SEO対策》検索エンジンの自然検索結果で、特定のWebサイトを上位表示させるための対策のこと。SEOとは、Search Engine Optimizationの略で「検索エンジン最適化」を意味する。

<sup>2</sup> 《MEO対策》地図の検索結果で、特定の場所を上位表示させるための対策のこと。MEOとは、Map Engine Optimizationの略で「マップ検索エンジン最適化」を意味する。

### 【山本企画推進課長】

いろいろ貴重な御意見をいただいたと思っております。まずは、県北の方に人を呼び込む、東京のリモートでも仕事ができる方々を引き込むとなったときに、県北の地域に移り住んで、ライフステージに応じてここでずっと生活していけるというイメージをきちんと知ってもらうということも、今後 PR する中ではきちんと伝えていかなければいけないということを強く思いました。やはり、今お話がありました、特に県南地域は、半導体を含め産業集積が進み、人がかなり動いているという話は聞きます。元々ここにあった既存のタクシー会社なども、儲かるころということでもどんどんそちらにシフトして、タクシー運転手さんがいないという話も聞いたりしていて、具体的に人の流れが大きくなってきているのだと思っております。先ほど東京で移住フェアをするという話をしましたが、懸念されるのは、県全体で PR するときに、条件だけを見ていくとどうしても県南の方に目がいくのではないかとことです。具体的な生活を含めて、県北へ移り住んで仕事をするこのよさというのをどうやって PR していくかというところは少し意識しながら、プロジェクトチーム・勉強会を通じて、9月のPRをきちんとやっていければと思っております。

あと、ニューヨークタイムズの関係は、そのとおりだと思います。盛岡に関心が高まっているということで盛岡にかなり人が来るといっても、そこからどうやってこの県北各地域に誘導するかということは、インバウンド向けの環境整備も含め、まだまだ環境整備していかないと、具体的に人を呼び込むというところには少し課題があると思っておりますが、今年度は、特に盛岡が注目されているので、これを機会に岩手を知ってもらうということをいかにつなげるか。これは県全庁的にも協議しながら、全県的な情報発信ができればと考えております。御意見ありがとうございました。

### 【局長】

子育てのしやすさ、生活のしやすさ、この地域の魅力をどうやって PR していくかということなんですけれども、今年度の新しい取組で、UI ターン向けの県北版企業ガイドというものを作成して東京での移住フェアでの配布をし、県北地域に関心持ってもらうというような取組を企画しています。その企業ガイドの中で、県北はどのような形で生活できるのといった視点を入れながら、生活のしやすさの部分、魅力を PR できればと思っております。

また、小松さんがおっしゃるとおり、シングルマザーの関係も一つあるかなと思っております。ある自治体からも、自分の地域は隣近所におじいちゃん・おばあちゃんがいる、幼稚園・保育園に入れなくても、仲良くなれば上手に面倒を見られる地域だと、そういったところを PR できないかと。そして、短時間でも働くようなところを、ローテーションを組んで紹介したりもできるといった提案も受けておまして、どうしたらそういった人たちにも PR できるかという辺りを考えていきたいと思っております。

### 【小松構成員】

例えば、東京で毎月7万円とか8万円家賃払っている人に向けて、それが7万円なのか8万円なのか10万円なのか分からないですけど、このくらいの家賃を毎月東京で払って暮らすか、田舎で畑付きの一軒家を建てて、毎月払って行って家を持つかというようなシミュレーションをつくるのもいいかなと思います。

### 【局長】

分かりました。ありがとうございます。

パークゴルフは、結構ファミリー層が行って子どもたちと一緒に遊んでいたりでですね。うちの企画の事業担当も若者同士で行って、やってみて面白かったという話もありました。ただ、今小松さんのおっしゃったとおり、普通にパークゴルフ大会やりませんかといったときに、若者の半分はそういうイメージを持つということで、「そうではないよ、これは若者向けだよ」という形でのPRも、ひと工夫しないとならないと思いました。ありがとうございます。

次はどなたかいらっしゃいますか。古舘さんよろしくお願いします。

### 【古舘構成員】

パークゴルフの話題が出ましたので。当社でも、パークゴルフのイベントでやるがあります。ところが、やはり若い人がやるイメージというのはなく、若い人は運動会、35歳以上はパークゴルフというようです。35歳以上はあまり張り切るとケガをしてしまうので、パークゴルフでゆっくりと楽しむということで、パークゴルフはポピュラーなんですけど、社内的にも若い人がやるスポーツというイメージではないのかなと思います。余談でした。

再エネを担当しています、十文字チキンカンパニーの古舘と申します。まず、人材確保の話題が先ほど出ていました。当社でも大変危惧してしまっていて、人材確保のために今年度から、今までなかった人事部という部署を立ち上げて、それ専属に、人を採用することを専門にやる部署をつくっております。昨年度までは、総務の中の担当者レベルで採用をしていたのですが、就活イベント、大学の方も、今後少し大変になってくるということで、もう少し力を入れようと。もう少し片手間ではなく、責任をもってその仕事をする部署を創ろうということで進めています。やはり就活とかそういったイベントには、コロナ禍でSNS中心の生活をされていたので、エントリーはものすごくいっぱいしているんですね。ただ、本当にリアルな面接、リアルな試験に来る人は、がたっと減ります。特に、東北以南に行った大学生などは、戻ってくるという率が非常に少ないという話を人事部のメンバーがしております。なので、まずは高校卒といっても、県内から出さない。とにかく地元就職してもらおう。あと、就職しなかった進学チーム分は、なんとか県外に行った分、よその県から連れてくるというくらいのことをしないと減ってくるのではないかなという話をしております。現在は、大学の教

授などのひも付きで結構メーカーとつながって、もう行き先が研究室の人間は決まっているということが非常に多いらしいので、とにかく大学と親密な関係を築いていかないとなかなか厳しいという話をしておりました。その辺を少しずつ手を入れていくということです。

あとは高卒の採用の方ですね。やはり県南に行きたいという生徒に、担当の先生が地元に残れということは難しいです。必然と、会社もいい会社であるということ、先生も含めて、生徒も含めて、アピールしていく必要が今まで以上にあります。地元の二戸でもやはり、県南に相当、特に工業系ですね、引っ張られていまして、今までより採用できる人数が減ってきているということは報告を受けております。

それでは、専門の再生可能エネルギーの方なんですが、資料1の11ページのところにある内容を見ながらお話させていただきます。まず、大規模な太陽光、あと風力発電は民間主導でしているんですけども、やはりどうしても資金力のある限られた事業者が主体であるのかなと思ってます。その中で、地元の人・起業がどのように関わられるのか、恩恵が得られるのかというところがすごく重要になってくると思います。なかなか主体となる事業者というのは、大きな会社がありませんので難しいのかと思いますが、地元の中小企業あるいは地域の人がどのようにかかわられるのか。こういったところが非常に重要と考えています。当然、県の方では強制力はないでしょうが、どのようにそういったところを誘導していくのかというのは、後で何か考えがあればお聞きしたいと思います。

あともう一つ、(3)に横浜市との連携協定が出てきています。すごくいい取組なんですけど、実はまだあまり知られていないというか、興味がない人からすれば、どうでもいい話なのかもしれないですが、もう少し地域の人を理解してくれれば、その辺周知していければ、地域住民の再エネに対する理解が自然と深まっていくと思います。地域理解の醸成が必要ということも書かれておりますので、このようなところを周知していくところから入っていけば、おのずと理解されると考えます。とりあえず以上です。

#### 【局長】

ありがとうございました。人材確保の関係は、いろいろな実情・状況をお話いただきました。我々もそういったことを十分踏まえた上で、政策を考えてまいります。

あとは、再エネの関係ですね。地域にとってどのような恩恵が得られるのか、そういったようなことを今後どのように考えていくのかというお話がありました。山本課長、よろしいですか。

#### 【山本企画推進課長】

ありがとうございます。確かに、太陽光発電や風力発電の大きな事業者さんが関わっていくような話や再生可能エネルギーを生かしたまちづくりというのは大きく出てはいるのです

が、住んでいらっしゃる方々が、その取組が具体的に自分たちにどう関わっているのかということや、いまいちイメージできないというのは、そのとおりだと思います。再生可能エネルギーを導入していく背景としては、地球温暖化対策として、これは待たないでやらなければならないということと、自分たちのいる地域の自然環境を生かしてエネルギーをシフトしていくということや、自分たちが住んでいるところがそういう取組をしていくんだということをきちんとイメージできるような普及啓発をしていかなければいけないのだと思っています。事業者さんの取組だけが先行して、そこに住んでいる方々に上手く理念・考えが浸透していかないということがないように、そこは並行してやらなければならないことだと思っています。

また、横浜市との連携の関係のお話がありました。確かに、今の取組は、どちらかという連携先の横浜市の方に行っており、関係市町村と連携して今循環型社会に向けて進めていますという取組のPRは、どちらかという観光物産などの取組の一環でしています。では、具体的に横浜市とどういう会議で連携していて、どういうことに取り組んでいるのかというのが、お住まいの方々にはきちんと浸透していないのかというところは、確かに御指摘のとおりだと思います。先ほどの話と重複しますが、やはり住んでいる方が、連携協定でどういう取組をしているのかきちんと理解していただく、知っていただくような機会は、またいろいろな機会を考えてみたいと思っています。以上でございます。

#### 【局長】

説明は重複するかもしれませんが、地元でどのような恩恵が得られるのかという視点でいきますと、洋上風力等を設置する工事だとか、その後のメンテナンスといった業務があるわけなんですけれども、そういったところに、首都圏の大手企業が入ってきてそれを全部やるということではなく、いかにして地元企業がその建設で参入できるのかとか、メンテナンスで参入できるのか、そういったところの勉強会もしていきたいと。既に秋田沖では洋上風力が実用化されているわけなんですけれども、そこに地元企業さんも連れて行きまして、今のいったような可能性はどういった状況かといった勉強会をしていきたいということで、企業さんにも勉強していただいて、将来を見据えてその企業としての技術を高める、あるいは身に着けるといった取組も誘導・促進していけるかと思っています。

すみません、先ほど小松さんから北上周辺との所得格差も出てくるのではないかという話がありました。産業振興室長からコメントがあるようです、どうぞ。

#### 【熊谷産業振興室長】

今の古舘さんからも、特に工業系の高校生が県南に引っ張られているということで、人材が不足しているということに関わってくるとは思いますけれども、先ほど小松さんからも、盛

岡から県南の方という話もありました。給料面等待遇もかなり違ってきているという状況もあるかもしれませんが、県北の方でも状況を把握しながら、様々取り組んでいきたいと思っています。そんな中で、やはり地元の企業をまず知っていただくということで、小中学生・高校生へ企業見学会や出前授業など、企業さんに協力いただきながら、生徒さんたちに伝えていきたいと思っていますし、あと、企業さんにも、自分たちの魅力はなんだろうということで、採用力を向上していくためにはどういったことが必要なのか、採用力向上の研修というのも企画して参りたいと思いますので、御協力をお願いします。あとは、地元のよき、暮らしやすさという話について、中学校なら中学2年生のときに職場体験を行っていますけれども、職場体験、社会体験等、そういったものを充実させながら、地元のすばらしさ、地元愛を育成できればと考えていますので、御協力をよろしく願いいたします。

#### 【局長】

それでは、次に参りたいと思いますが、次、私がということで、では野田さん、よろしくお願い致します。

#### 【野田構成員】

洋野町大野にあります、社会福祉法人みちのく大寿会、施設の名前は特別養護老人ホーム久慈平荘で副施設長をやっております、野田大介です。よろしくお願い致します。

私からは5点ほど、簡単にいきたいと思います。

1点目は、新しくできた道の駅いわて北三陸のガソリンスタンドの営業時間を、もう少し長くできないかという要望です。19時までの営業だったかと思うんですが、観光客の方が道の駅に立ち寄り、思ったよりスタンド早いねという話を聞いています。あれは民間の方なので仕方ないとは思いますが、金土日だけ23時まで営業するとか、そういった営業の仕方ができないかという提案です。実際、仙台から三陸道で帰ってきたときガソリンが少なくなって、山田で降りてずっと探していたんですけども、夜10時以降は、この沿線ですと宮古のフェリー乗り場の前にある24時間のスタンドしかなくて、それ以降の北は八戸まで行かないとなくて、夜も走る人がいるというのを考えると、広域的な道の駅ということで、スタンドの営業時間の延長を、できれば災害に向けて24時間の営業対応でもいいのではという提案です。

2点目、情報共有なんですけれども、何をしてほしいというより、こういう人がいますという情報共有です。今、修学旅行に行けない中高生がちらほら出てきています。傾向としては、ひとり親家庭の子どもさんで、高校の場合ですと、修学旅行代金の前に学級費を払わないと、たとえ修学旅行代金を払っても、修学旅行に連れて行かないというルールが県立高校にはあるようです。そういう子が年に1～2名いるということでした。修学旅行は大事な教育の一つのプログラムかと思うと、その分支援してほしいというわけではないですが、こう

いう人がいるという情報を共有させていただきます。生活困窮者支援ということでは、岩手県社会福祉協議会にあります岩手県社会福祉法人経営者協議会が主体となって、今基金を積み立て、その基金で、生活保護ではなく生活困窮者支援として、生活困窮者世帯に向けての5万円までの現物給付をしています。私はその相談員をやっておりまして、比較的、久慈地域という地域は生活に困っている方が多いと感じております。困っている方の傾向としては、知的障がいのある方もいますが、基本的にはひとり親家庭です。やはり収入が少ないということが根本的な問題だと思っております。そういう点では、給料のアップがこの地域全体の問題かと思ひ、情報を提供させていただきます。

3つ目は、今度は福祉関係の話ですが、岩手県内に福祉系列がある高校が5つあり、そのうちの2つがいわゆる県北広域振興局管内にあります。久慈東高校と一戸高校で、この2つの高校はどちらも定員割れが続いています。介護・福祉がこの地域に必要なということで、この系列が現在も残っていると思ひます。その点で、一戸高校の阿部先生が主体となり、「北いわて福祉産学勉強会」というものをやっております。こちらの方は、福祉系列の2つの高校と、私たち福祉の現場の職員と一緒に手弁当で勉強会をやっておりまして、今月も一戸のコミュニティセンターで、いわゆる抱えない介護、リフトを使った介護の勉強会をしてまいりました。次回は11月に、久慈東高校の担当になり、ヒロノットで「看取り」について開催する予定です。その点で要望としては、系列の生徒さんが勉強する機会をもう少し増やしたいという点では、県北広域振興局さんの支援が必要かと思ひます。やはり高校の予算が限られているという点で、年に2回しかできないということもありますが、内容も、外部講師を呼びたいということもあります。ぜひその辺りを御検討いただければと思ひます。

そして、4点目ですが、外国人支援です。福祉業界は人手が足りなくて、外国人介護士を入れるようになってきています。そこで、川代さんもおっしゃっていた宿舎のところですが、今、自前でアパートとかシェアハウスを作っているのですが、地元の洋野町大野地区にも、県立高校の先生方が泊まる宿舎が空いていて、ほとんど使われていない状態です。そこを、払い下げは難しいと思ひますので、できれば外国人労働者の方のための宿舎として貸し出すのはどうかと思ひます。

最後になりますが、福祉業界のことを話すと働く人がいなくて大変なのですが、新たな傾向がこの頃出てきました。高齢の利用する人が少なくなってきました。県で「待機者」の調査をされていますが、あの数よりも、実際に待機している人は少ないと感じています。実際、うちの方でも170人くらい待機者がいるんですが、入所の声をかけると、そのタイミングで入ることが可能かという人が大体10名くらいしかいないという現実です。そのほかの方はどこにいるのかというと、病院や老健などにいますし、あとは、お金の問題もありまして、自宅でもう少し看るといふ人もいます、実際に今利用する人も少なくなっているという状況です。施設を新たに建てるフェーズではなくなってきたらと思ひます。ぜひそ

ういう点では、今いる職員のところ、働く人が喜ぶような支援、岩手県の独自の支援があってもいいのかなと思って、提案させていただきます。以上です。

**【局長】**

ありがとうございました。それでは、高校の勉強会の連携・支援、千田部長どうですか。

**【千田保健福祉環境部長】**

保健福祉環境部の千田です。介護系の職員の人材確保ということで、県立高校さんの方でそういった課程を設けて人材養成をされているといった中で、福祉施設と連携して、高校生の方に福祉サイドから体験学習のようなものを作りたいというのは、大変有意義な企画内容かと思えます。そういったときに諸々かかる経費についての助成ということでございますけれども、県立高校さんの方のそういった部分の支援について、どのようなものがあるのかというのを存じ上げておりませんので、それを把握した上で、部の方からどういった財政的な支援ができるのかということについては検討してみたいと思えます。

**【局長】**

あと、県立高校や中学校など、廃校に伴って宿舎も使われていない部分もあろうかと思えます。そういった部分、我々もここをなんとか活用できないかということはあるまして、研究して参りたいと思えます。

それから、利用者の減少についても、これもひとつの課題ということでとらえてまいりたいと思えます。ありがとうございました。

それでは次は、堤内さんよろしいですか。田家さんも、次にお願いします。

**【堤内構成員】**

洋野町で酪農家をしている堤内です。みなさんの意見が面白くて、つい聞き入ってしまいました。

農家としては、結婚は今すごく問題なんです。私が知っている中で、もう農家は40軒を切っちゃって30数軒になってしまったんですけども、その中で、今年結婚したのは1軒です。若手はすごく戻ってきているんですけども、元々高校の頃から付き合っていたという彼女と結婚したという人が1組だけです。新たに出会ってというのは、ほぼないですね。結婚していない若手、といっても農家の若手は大体40代まで若手なんですけど、それ以上の人も、未婚率が結構高くて、それこそ、先ほどのシングルマザーに来てもらってという出会いがあってもいいのではないかと思います。本人たちにそういう自覚があればですけども。やはり未婚の女の人と結婚したいという夢を見ている人もまだたくさんいるので。そし



て、その出会いの場に全く出てこないんですよ。残っているのは大体恥ずかしがり屋さんで目を見て話せない人がほとんどなので、これからも減少するのではないかと私は思っていました。

いろいろ聞いてて面白いことはたくさんあったんですけども、まとまっていなくてすみません。ちなみに、パークゴルフは、私はすごく地元で、実家から5分くらいで行けるんですけども、20年ぶりにこの間子どもとイベントで行きました。なので、地元としても、お年寄りのゲートボールのようなスポーツという認識になっているので、地元の人たちが行くかということ、私の友達に聞いても行かないのではないかと思います。

あと、収入は、酪農家は低いです。結局今年はコロナで市場代も下がりましたし、牛の販売価格も半額以下に下がったので、赤字です。うちとしては2回借金をしました。それで1年もつかと思ったんですが半年しかもたなかったんで、結局もう1回別のところからお金をもらって、このあいだ乳代があがったので、それでようやくトントンで回せるかという感じなんです。作業を効率化するために牛舎を新しくしたり、餌関係や堆肥関係の企業さんと連携して、餌を自分でつくらなくていいとか、堆肥を自分のところで処理しなくていいということにも全部入っているんですけども、結局それにもいちいちお金がかかりますし、牛舎を新しく建てたのを返却するのに、またお金がかかるんです。なので、うちは多分貧困家族の方です。

それから、大学は酪農関係の大学で北海道に行ったんですが、そこには非農家さんもいます。私は農家になるためにそちらに進学したんですけど、動物がただ単に好きとってきている子も結構いました。動物が単に好きと言っていても、その後に就職できる、例えば酪農ヘルパーさんとか、検定員さんとか、農協関係に就職すると動物に触れ合う機会があるといった、そういう認知が足りないのではないかとも思いました。うちの地元で嫁に来ればいいのと思う子も何人もいたんですけど、私が嫁にもらうわけにもいかないので、結局非農家の人と結婚してしまった子たちもいるので、もったいないと思いました。

あと、結婚したときに、私は東京出身の人を婿さんにもらったんですけど、結婚して地元に戻ってきたときに、とりあえず家がありませんでした。同居はしたくないんですよ。24時間、牛舎も一緒、私生活も一緒となると、長続きしないらしいので、別居したくて家を探したんですけども、牛舎から近くの家を探すのに時間がかかりました。それと、向こうは就職して仕事を何年もしてたので、向こうの所得税を1年間払い続けるのが給料が少なくてすごく大変だったんです。生活がまる一年、どうしてこんなに税金を払わなければいけないのかという生活をしたので、その補助もあると助かったなと過去を振り返って思いました。こんな感じです。以上です。

**【局長】**

ありがとうございます。酪農関係の高騰に対する支援状況、米谷部長お願いします。

**【米谷農政部長】**

農政部の米谷です。酪農関係、状況はいろいろとマスコミ等でも取り上げられておりますので、状況については大変だということであり、県の方でも国の政策等に加えまして、餌代の方で一部、足しになるのかと言われると本当に足しにならないと言われることもあります。そういうことをやっています。あと、この春から普及センターの人たちが中心になって、いろいろお話を聞きながら、ということを進めていきましたので、苦しいというときには、ぜひ私どもの方にもお声をかけていただければ、何がしかのことをいろいろとアドバイスできるもの、あるいは「こういった制度があります」「こういった支援策があります」といったことを、つぶさに情報を伝えていきたいと考えておりますので、遠慮せずいろいろとお声をかけていただければと思っておりました。あと、外部の方に堆肥の処理あるいは餌の方の調整をお願いしているといったところの仕組み。この地域は、経済でも割と優秀な地域、先進的な取組をされている地域でしたので、改めてそういったところを見直しながら、こういった制度・仕組みがいいのかということを含めて、酪農家の皆様と一緒に考えていきたいと思っておりましたので、その準備を今普及センターと一緒に進めているところでしたので、よろしくお願ひしたいと思っておりました。いずれにしても大変な時期です。この時期、我々としては、この地域から1戸でも酪農家を減らしたくないという思いで頑張っていますので、よろしくお願ひします。

**【局長】**

若者のUターンして来られたときの住宅の確保は、そのとおり、我々もなんとかしたい課題だと思っておまして、先ほどの教員住宅の未利用のところをリフォームしながら使えないかとか、やはりそれも一つの選択肢なのかと思っております。

**【堤内構成員】**

今、教員住宅に住んでいます。そこしか空いていなかったの。それこそ、今外人さんが1棟住んでいて、やはり文化が違うので、朝5時からお祈りが始まるといって隣の家から苦情が来たりもしているらしいので、そういう理解を求めるのも必要かと思っておりました。

**【局長】**

わかりました。ありがとうございます。

それでは、田家さんよろしくお願ひします。

## 【田家構成員】

本日遅れて参加させていただきました、田家と申します。よろしくお願ひいたします。資料3の意見交換の進め方を見ながら、これに沿ってお話させていただきたいと思ひます。

施策推進方針、重要課題、本当にまとめているというか、あたりさわりのない、やった方がいいものを挙げていると思ひますが、果たしてこれでどれだけの効果があるか、こういうところをしっかりと考えていただきたいと思ひます。先ほどパークゴルフの話が出ていました。やってみると面白かったりしますが、やはりイメージはお年寄りがやっているというところはそれとおりでありますので、このパークゴルフをやったことによつてどれだけのカップルができたかというところも、成果としてしっかりと検証するべきものだと思ひます。要は、お付き合いをしない方というのは、話したりコミュニケーションをとるのが苦手だったりというところなんですけれども、一緒にパークゴルフをやるということがどういふ効果があるのか、これは少し面白いと思ひますので、そういう視点で見れば面白いのではないかとと思ひます。

また、Uターン・Iターン、こちらはみなさん、岩手県以外でもどこでもやっています。やらないとマイナスなだけですので、やるべきだと思ひうんですけれども、ただ、素晴らしい人材がくるという保証はないですし、やはり地元と上手くいかなくて帰るといふ話も聞かれています。その横（資料1の4ページ）に、「新規高卒者約7割が進学で外に出ていく」と。そういうところを減らす施策も考えるべきなのではないのかと感ずるところでございます。昨今コロナ禍で、先ほども出ていましたが、オンラインで授業をやっていたということもあるでしょうし、どんどん小学校・高校も統合されていくということで、そういうスペースはあると思ひますので、そういったところに、大学のサテライトとして、県立大学でもいいですけども、二戸と久慈に大学のサテライトでも作っていただければ、学生は出ていかないので。そういった変わった考えを、当たり障りがない施策で現状維持よりも、何か突き抜けたと言ひますか、とんがったこともやっけていってほしいと思ひます。今、どこでもやっけてることをやっけて、効果があるものと思ひていませんので、何か独自の手法も考えてほしいと思ひます。現状、二戸市の県の職員のみなさんは、盛岡から通っています。それにも理由があつて、やはり盛岡の方が生活しやすい、通つた方がいい状況にあると。なので、そういう方になぜ盛岡から通うのかということも聞けばヒントになると思ひますし、やはり生活しづらいという現状があるということでございますので、何かそういうところも検討していただきたいと思ひます。

先ほどの小松さんのシングルの方に優遇したという部分、これも素晴らしい意見だと思ひます。県内で県南よりも、県央よりも、シングルの人にすごく手厚い補助なり何かできるとなると、やはり人を集められると思ひますし、私の個人的な意見もありますが、結婚の理想と現実、そういうことも分かつた方がいらつしゃるといふのは、次の結婚につながることで

もあつたりするとも思います。私は昔の仕事柄、日本の歴史とかが大好きで、昔は、後家さんのほうがいい時代、江戸時代であるという時代もありました。初婚の人がいいわけではなくて、一度結婚したの方が素晴らしい方という考え方もあった国ではありますので。何かそういう、今まで目をつけていないことに目をつけるという考え方はとても大事だと思いますので、そういうのを参考にしてもらいたいと思います。農業、産業、各分野すごく推進していこうという考えが盛り込まれていますので、これをしっかりと検証し、やっていただきたいと思いました。以上でございます。

#### 【局長】

ありがとうございます。U・Iターンの取組の部分で、様々なヒントを提言いただいたと思います。企画推進課長、コメントありますか。

#### 【山本企画推進課長】

まず最初に、パークゴルフの関係は、皆様からかなり耳の痛い御意見をいただいているところでございますが、私も先ほど説明しましたとおり、まず若者をゆるやかに交流する機会ということで、こういう形ではどうかということでやってみるものでございます。まだやっていないのですが、今お話しがあったとおり検証は必要だと思っています。実際やってみて、参加した方がどうお感じになったのか、この取組はどうだったのか、また若い方々の意見を聞きながら、検証していきながらいい事業にしていきたいと思っております。

また、U・Iターンの関係、なんとなく我々は与えられた条件として、今の状況だと新規高卒者7割は進学で出てしまうというのが大前提となっておりますが、今の御視点のように、では流出する要因をどうしたら減らしていけるのかということもありますでしょうし、流出した方々が今就職率が5割ですから、それを高めるためにはどうすればいいのか。それは県北に戻ることを選択した方・しなかった方がどういう考えでその判断になったのかというのは、きちんと検証していかなければ、よりよい事業にはつながらないのかと思っております。その視点をきちんと押さえながら検証していきたいと思います。ありがとうございます。

#### 【局長】

ただいまいただきました取組も、今後の県北地域にとっての取組の視点として、重要な視点だと思っております。あともう一つは、進学でどうしても県北局管外に出られた方に、卒業したら戻ってもらう、どうやったら戻ってもらえるかということにも重点において取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

じっくりではありましたが、みなさまから様々御意見いただいたところであります。ありがとうございました。一通り御発言をいただきましたけれども、さらに、今までの様々

なやりとりの中で発言を付け加えたいとか、新たに意見を述べたいということがあれば、なんでも構いませんのでお話しいただければと思います。いかがでしょうか。

野田さんどうぞ。

#### 【野田構成員】

今のシングルの話のからみで思い出したのは、島根県浜田市だったと記憶しておりますが、そこで介護人材を確保するために、関西圏のシングルマザーの方に移住してもらう促進事業を行っております。この促進事業の肝は、移転した際に1年目の給料の補助と、あとは自宅のあっせんと自家用車のあっせんもしてくれるというものです。田舎の方では、どうしても足として車が必要ということで、そういう取組をして関西圏から島根の方に人が移住をしているのをやっております。二番煎じだとあまり面白くないので、岩手版で何かできないかと考えてやるのもいいかなと思って、情報提供でした。以上です。

#### 【局長】

御意見ありがとうございました。私どもも、多分仕入れていない情報だと思います。やはりベンチマークは大事ですから、島根県のそういった取組を勉強してみたいと思います。

そのほか何かありませんか。どうぞ。

#### 【藤織構成員】

シゴトバクラシバいわてについてももう少し聞きたいんですけども、あれは企業さんとかに登録してほしいという周知とか、そこで就職すると移住者はお金がもらえるということとか、どれくらい伝わっているのかなど。久慈市の企業が全然ないので、どうなっているのかと思っています。

#### 【鎌田二戸地域振興センター所長】

シゴトバクラシバいわてですが、ジョブカフェいわてで運営しておりますが、県の商工労働部の方から委託してやっている事業ですけども、実際、ジョブカフェが盛岡にあるものですから、県北地域、久慈・二戸含めて登録数が少ないということで、私どもの方でも課題だと思っております。先ほど言っていました企業ガイドをつくる際には、併せて企業ガイドから、シゴトバクラシバにつながるなど、そういった仕組みも考えておまして、登録数もそもそも増やしたいという動きもしていたところです。ただ、今年始めたばかりですので、なかなかまだ周知が行き届いていないところが多々ありますので、いろいろな場面を通じて、シゴトバクラシバの方は、いろいろな移住定住の取組のベースになっているところもありますので、そういったところも理解を求めていきながら、周知にはこれからも務めていきたい

と考えております。

**【局長】**

ただ、移住支援金をもらうためには、藤織さんがおっしゃったとおり、シゴトバクラシバに登録しておかなければもらえないということだから、シゴトバクラシバと我々の県北版企業ガイドのリンクを貼るのもいいけれども、それだと支援金をもらえないから、シゴトバクラシバに登録を促さなければならないですね。

**【鎌田所長】**

促していきます。

**【局長】**

ちょっとそこは、私も勉強不足でした。ありがとうございます。

そのほかありませんでしょうか。小松さん、どうぞ。

**【小松構成員】**

振興局の方で可能かどうかを聞きたいのですが、さっき田家さんが言っていたとおり、やはり突き抜けるというか、よそでやってないことをやるのが、メディアにも取り上げられるでしょうし、可能性が高いと思います。若い方を連れてきたいということを中心に考えれば、TikTok をやるというのはできるものかなと。例えば、さっき言ったシュミレーションのところを TikTok の映像にして流すとか、それぞれの企業の紹介を順番に TikTok でやっていくとか。例えば、年齢層でいうと Twitter と TikTok が 10 代・20 代が一番多いんですけども、Instagram は 30 代～50 代という年齢層になっていて、Facebook は、メインは 40 代以上みたいな感じに今なっているんですが、Twitter や Instagram はフォローしていないとなかなか出てこないんですが、TikTok は興味があるものが次々でできますので、そういう仕事を探していたりだとか、田舎に興味があるとか、そういう興味があるもので出てくる人が見れば影響があるのかなと思うので、そういうことができる可能性はあるのかということは少し聞きたかったです。

**【局長】**

山本課長、分かりますか。

**【山本企画推進課長】**

従来より北いわての認知を高めるためには SNS を活用していこうという話がありまして、

今検討しているんですけども、それも、Twitter や Facebook など、それぞれの特性や訴求する年齢層・年代層も違うと思いますし、TikTok も一つのアイデアだと思うんですけども、おそらくそういったものを活用してきている例がないかなという取組だと思います。

**【小松構成員】**

ないからいいかなと思います。

**【山本企画推進課長】**

少し行政的な話になりますが、行政として発信していくというときに、継続的に情報を発信していくという仕組みを作らなければいけないですし、それぞれの SNS の持つ特性を十分に生かして、いかに知ってもらうかということですよね。どういった形で発信できることがいいのかというのは、SNS 自体は検討しておりますので、今の御意見も検討していきたいと思っています。

**【小松構成員】**

地域おこしの方にやっていただくというのでもいいかと思います。

**【山本企画推進課長】**

SNS の活用については、幅広に検討していきたいと思っています。

**【局長】**

少しここは、研究していきましょう。

そのほか、予定時間に近づいてまいりましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、先ほど川代さんからお話があったものと関連して、後半戦に取っておいたテーマがあります。というのは、我々は結婚支援のイベントで、いかに参加していただくかということがありまして、企業にお願いして応募してもらうわけなんですけれども、川代さんがおっしゃったとおり、なかなか強く言えるものでもない。言え言えだけ何とかハラスメントにひっかかる懸念されるという御意見も頂戴しております。

そういった中で、今年の2月に二戸地域で、県庁の事業だったんですけども、結婚支援のイベントを開催して、男女ともに予定どおりの定員を確保できた。その際に、二戸地域の企業さん、小松製菓さん等に協力していただいて、そういった参加者も確保できたよというお話がありました。そこで、小松さんのところでは、当時どういった形で従業員の方に PR されたのか、何かありますか。

【小松構成員】

食堂や掲示板に貼りだしているのを見ました。

【局長】

個別に当たったとかではなくて。

【小松構成員】

それはないです。

【局長】

では自然体で、ですか。

【小松構成員】

はい。掲示板に貼ってあるのは見ました。

【局長】

私としては、特別に何かしていただいたのかなと思っていました。

【小松構成員】

多分自発的に行きたいという気持ちがないと、やはり行っても消極的なまま終わると思うので、そのラインは超えられる人ではないとだめなのかなというので、多分、掲示で、行きたい人はここから、という形にさせていただけたと思います。

【局長】

いろいろなところに貼られて周知していたということですね。わかりました。ありがとうございます。そういった取組もまた再検討しながら、進めて参りたいと思います。

そのほか、最後でありますけれども、最後にここだけは言っておきたいという部分はありませんでしょうか。田家さんもよろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。

本日は出席の方も絞られているということで、相当具体的で、かつ、深い意見交換ができたと思っております。本当にありがとうございます。本日の意見交換を踏まえまして、さらに次の取組・展開を考えていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

それでは、進行につきましては事務局にお返しします。



#### 4 その他

##### 【下山理事】

それでは、最後に次第4、その他でございますが、何かございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

#### 5 閉会

##### 【下山理事】

それでは、以上をもちまして、本日の会議は終了いたします。

次回の第2回は11月下旬から12月頃を予定しております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

なお、御出席いただきました委員の皆様には、後日、お礼の品をお送りさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それではこれで終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。